



世代を越えてスキーを楽しむ

第53回庄原市東城地区スキー大会・2/4

No.6

ひろしま県民の森スキー場で、庄原市体育協会東城支部が主催する庄原市東城地区スキー大会が開催されました。このスキー大会は、これまで数多くのジュニア選手が巣立った歴史のある大会です。

大会では、個々のレベルに合わせたスキー講習に19人が参加し、競技には6歳から67歳までの34人が男女・年齢別の12部門に出場し、タイムを競いました。当日は天候に恵まれ雪のコンディションもよく、参加者は気持ちよくスキーを楽しんでいました。

女子小学生低学年の部に出場した、小田和さんは「難しいコースだったけど、最後まで滑りきることができてうれしかった。来年もまた出場したい」と話していました。



▲ゴール目指してスタートを切った

元スキー場で雪遊びを楽しむ

スノーフェスタ in くちわ・1/28

No.8

金尾原元スキー場で、13回目となる「スノーフェスタ in くちわ」が開催され、市内外から約100人が参加しました。

宮内自治会を中心に、口和町観光交流協会などが企画し、かまくら作りやそりすべりジャンプ大会、雪中宝探しなどさまざまなイベントが行われました。そりすべりジャンプ大会では、子どもたちはそりに乗ってきれいにジャンプを決め、滑りを楽しんでいました。昼食には、うどん、おでん、おにぎりが、おやつにはぜんざいなどが振る舞われ、参加者は冷えた体を温めていました。

宮野克己実行委員長は「毎年市外からも大勢参加される。口和町をもっと知ってもらうため、今後もイベントを続けていきたい」と話していました。



▲ジャンプ成功

薬との賢いつきあい方を学ぶ

総領自治振興区仙寿大学・1/19

No.5

総領自治振興センターで、「仙寿大学」が開催され、30人が参加しました。総領自治振興区では、高齢者の生活の課題を学習することを目的に、年に6回開校しています。

午前の部は円形的に矢を放ち得点を競う「スポーツ吹矢」を体験しました。午後の部は総領診療所長高張康介医師を講師に招き、「知って得するお薬との賢いつきあい方」と題した講演が行われました。講演では、ポリファーマシー（多剤併用）対策やジェネリック薬品の活用必要性などについて、分りやすく説明されました。

高張医師は「正しい知識を身につけ、薬と賢くつきあってもらいたい」と話していました。



▲参加者は高張医師の講演に聞き入った

おいしいコーヒーの入れ方を伝授

西城自治振興区 コーヒー教室・2/6

No.7

西城自治振興センターで「集まれ！母ちゃん！不安解消塾！」コーヒー教室が開催され、地域住民など10人が参加しました。

2回目の開催となる今回は、珈琲屋「洗心館」オーナーの安原克さんがペーパーフィルターを用いたドリップ法について実演を交えながら説明しました。また、参加者は浅煎り、中煎り、深煎りといった焙煎度（煎り具合）による香味や豆の種類による味のの違いについて学び、自分が最も気に入った豆を選びドリップ（フィルターに入れてこす）しました。

講師の安原さんは、「お気に入りのコーヒーをお供に、お気に入りの空間で、物ではない豊かさを感じてほしい」と話していました。



▲お気に入りの豆を使ってドリップ

文化財の保存継承のために

口和町「多加意加美神社」防火訓練・1/26

No.2

1月26日は文化財防火デーです。文化財防火デーは、昭和24年に現存する世界最古の木造建築である法隆寺の金堂から出火し、重要文化財の壁画が焼損したことがきっかけで始まったものです。

本年も文化財防火デーに合わせて、1月21日に口和町向泉の「多加意加美神社」で防火訓練が行われました。「多加意加美神社」は本殿・獅子狛犬・隨身像・社叢（神社の社殿や境内を囲うように密生している林）が市の指定文化財となっています。貴重な文化財を後世へ伝え残すため、地域の皆さんはバケツリレーや消火器などでの初期消火訓練に熱心に取り組んでいました。



▲訓練ではバケツリレーなどが行われた

音楽で地域を盛り上げる

東城ミュージックコンサート・1/21

No.4

庄原市東城文化ホールで、東城ミュージックコンサート2018が開催され、延べ450人が参加しました。

5回目となる今回、東城地域を中心とした18グループが、バンド演奏やエレクトーンの演奏、ダンスなどを次々に披露しました。コンサートは8時間にも及びましたが、幅広い年齢層の出演者たちが、仮装や演出、曲のアレンジなどで個性を出し、会場を盛り上げました。また、会場内では地域の有志の方から手作りのディナーも振る舞われ、来場者はコンサートの合間に食事を楽しみました。

実行委員長の藤原裕泰さんは「毎年多くの方の笑顔が見られるイベントになってうれしい。今後も音楽で東城を盛り上げたい」と話していました。



▲たくさんの来場者で会場はにぎわった

地域で守り伝えられる

神弓祭・1/27

No.1

西城町内で、神弓祭が行われました。神弓祭は弓が中心的な役割を担う神事で、家内安全・五穀豊穡を願い、弓の弦を打つ勇壮な音色に乗せて、歌うような調子で祭文を唱えながら執り行われます。古い形式を留めた全国的にも貴重な祭りとして、特に西城地域のものには広島県の無形民俗文化財に指定されています。本来は非公開の祭りですが、調査研究のために参観が許され、東京や出雲からも3人の研究者が訪れました。

中世芸能の研究者の宮嶋隆輔さんは「神弓祭はこれまであまり情報がなかったもので、今回の成果は大きい。なによりも、素晴らしい祭りを見ることができて本当に感動した」と話していました。



▲弓の弦を打ち鳴らしながら執り行われる

文化財を火災から守る

比和自然科学博物館収蔵庫火災想定訓練・1/24

No.3

文化財防火デーに合わせて、比和自然科学博物館で火災想定訓練が行われました。火災が発生した収蔵庫から文化財を無事に運び出し、延焼防止を図るという訓練でした。

当日は、時折吹雪になるほどの厳しい寒さでしたが、庄原消防署高野出張所の隊員たちにより、スムーズな訓練が行われました。訓練では、12月に同出張所に配備されたばかりの新型ポンプ車が用いられました。このポンプ車は、水・泡・混合液の放射切り替えが可能で、少ない水で高い消火性能があります。

訓練の見学に訪れた住民は、「泡の出るポンプ車は初めて見たが、迫力があつた。改めて火災防止への意識が高まった」と話していました。



▲新しく配備されたポンプ車を用いて訓練が行われた

■今月号は裏表紙にもカメラレポートの記事をカラーで掲載しています！

■今月号は裏表紙にもカメラレポートの記事をカラーで掲載しています！